

いつまでも
暮らしていける
苫前に

とままえ 10

No. 722



まちひと百景

町のシンボル リニューアル

7月から改修のため、役場庁舎前の熊のモニュメントが一時不在となっていたが、きれいになり戻ってきた。

まちを訪れる観光客の休憩や撮影スポットとなっている熊のモニュメントは、設置から33年が経過し色あせなど劣化が目立っており、ふるさと納税制度を利用したクラウドファンディングも活用しリニューアル。夜間の目の点滅も復活し、新たに交通安全期間中には、たすきを掛けて交通安全も呼び掛けることとした。

- シリーズ苫前商業高等学校 ほか…2
- 学校ブックフェスティバル ほか…3
- 令和4年度以降の成人式について ほか…4
- 町健全化判断比率及び資金不足比率…5
- 健康ばんざい…6
- 地域包括ケアだより…7
- 国民健康保険ガイド…8
- 国民年金ほか…9
- 学びの広場…10
- 住まいる情報…11~13
- 中学生ギャラリー…14



まちの人口

人口/2,915人 (男/1,406人 : 女/1,509人)
世帯数/1,484世帯 (9月30日現在)

「卒業生を訪ねて②」

6月に本校で歯の健康教室、その名も「健口(けんこう)教室」を実施しました。「口腔の状態が、生まれた時から人生を終えるまで身体の健康維持に深く関わっていること」を学び、家族や次の世代に伝えていってほしいという願いで企画したものです。企画から実施まで古丹別歯科診療所様にご協力をいただき、当日も歯科衛生士さん達がアドバイザーとして参加をしてくださいました。



平成25年3月に卒業した岡田里菜さんがそのひとり。岡田さんは我が町出身。手に職をつけ、いつか地元に戻って働きたいという思いで小樽歯科衛生士専門学校に進学されました。現在の職場に就職してもうすぐ3年。中学卒業から現在までの進路選択で本当によかったと感じているそうです。今回のインタビューはそこをもうひと掘り。

高校を選ぶ際の決め手は「地元の高校であり、様々な資格が取得できること」、専門学校を選ぶ際の決め手は「北海道で一番学費が安く、少数精鋭で国家資格の合格率が高いこと」だったそう。オープンキャンパスに4回参加し「また来てくれたね。」と声をかけてもらったこと、生徒同士で教え合うことや先生と1対1で教えてもらうことがあたり前に行われている校風であったことが、学びの楽しさとなり、今につながっていると力強く答えてくださいました。都会から地元へUターンしたことにより、「顔が見える」人とのつながりを実感し、それが仕事のやりがいや安心感のある暮らしにつながっていることに気づくことができました。

「少人数の利点」と検索すると、「大人数は、グループ化しやすく内面的な部分の交流は少ない、少人数は人それぞれの考え方の違いや個性を知ることができ、認め合い協力し合う力がつく」とありました。「見えるつながり」のある学校・地域での暮らしをあらためて見つめ直すインタビューでした。

文・写真：苫前商業高校地域連携委員：瀧川直子

防災学校 ~苫前小学校~



8月30日(月)に苫前小学校(熊倉一弘校長)5年生11人による防災学校が行われた。町総務財政課の職員2名が講師となり、いざという時しっかりと行動できるように普段から避難訓練を行い備えることが大切との説明後、避難所体験として、昨年度から導入された段ボールベッドや簡易テントを職員と一緒に組立てていた。簡易テントは、プライベート空間の確保のほか、コロナウイルス等の感染症予防のために導入されたもの。1時間という短い中で子どもたちは、楽しそうにベッドやテントを組み立てる中でも、真剣に話を聞いており防災についてよく考える有意義な時間となったようだ。

地域学校協働活動「絵手紙作り」

最後の作品発表では、両手に絵手紙を持って、出来上がった作品に対し満足そうな表情で感想等を話していた。

8月26日(木)古丹別小学校(山口清敏校長)で地域学校協働活動「絵手紙作り」が行われ、6年生11人が参加した。講師は絵手紙サークルの西川加代子さん、柴田頼子さん、前田幸子さんの3名が務めた。講師の丁寧な指導のもとジャガイモやニンジン、キュウリなどの野菜をモデルとして描き、絵の具で色を付けたり、事前に作成しておいた落款を押ししたりして絵手紙を完成させた。



地域学校協働活動「着衣水泳」



8月23日(月)古丹別小学校の3年生10人が、苫前町B&G海洋センターで地域学校協働活動として着衣水泳が行われた。服を着たままでも浮ける様に空のペットボトルを抱えたり、ライフジャケットを着用して力を使わず簡単に浮くことができる方法を教わった。これは緊急の際に川などで助けが来る前に溺れないため。また助けるための方法も一緒に学んだ。子どもたちは、この事業を通して普段とは違う水の感覚を楽しみながらも危険がないよう真剣に取り組んでいた。

学校ブックフェスティバル ～苫前小学校・古丹別小学校～



8月31日(火)古丹別小学校(山口清敏校長)、9月8日(水)苫前小学校(熊倉一弘校長)の体育館で学校ブックフェスティバルが開催された。

公民館図書室から800冊の小説や図鑑、絵本などの幅広いジャンルの本が選書され体育館に並べられた。



今年のおはなし会では「おはなしの森ひなた」が制作した影絵「苫前の孝子伝説」も行われた。

800冊の本を目の前に児童たちは小説や図鑑などそれぞれ興味のある本を手にとって読んだり、借りる本を熱心に選んだりしていた。

朝の「声かけ運動」～苫前町民生委員・児童委員協議会～

9月22日(水)には、苫前・古丹別中学校でも朝の声かけ運動が行われた。

9月8日(水)に苫前・古丹別小学校の登校時に苫前町民生委員・児童委員協議会(小林孝之(会長)と羽幌警察署少年補導員 苫前支部(加藤隆雄支部長) 合同による朝の「声かけ運動」が行われた。

登校する児童たちと「おはようございます」と元気にあいさつを交わしたり、グータッチをしたりと仲の良さそうな様子も見かけられた。児童たちは朝からとても明るい表情で登校しており、校舎前には元気な声が響き渡っていた。



地域学校協働活動「酪農体験」



9月24日(金)古丹別小学校の3年生10人を対象に株式会社箱柳牧場で地域学校協働活動「酪農体験」が行われた。

代表取締役の丹羽秀樹さんが講師となり、始めに「施設内では大声をださない」など注意を呼びかけ、酪農の一日の仕事の流れを説明した。児童たちは、搾乳や哺乳体験などを通して多くの牛と触れあった。

児童たちからの「牛舎で使う道具はどんな物があるの」「1日にどれほどのエサを食べるの」などの質問に対して丹羽さんは丁寧に答えていた。

酪農体験を終えて児童たちは「酪農家は1日に沢山やるのがあって大変さがわかった」などと感想を話していた。

プールでSUP体験 ～苫前町B&G海洋センター～

参加者全員が初めてのSUP体験であったが、少しの練習で立つほか、ジャンプしたり回ったりとバランス感覚をつかみ、落水しながらも何度も挑戦し楽しんでいた。

9月27日(月)苫前町B&G海洋センターで「プールでSUP(スタンドアップパドルボード)体験」が行われ12人が参加した。

海洋センター職員から乗り方やパドルの持ち方、漕ぎ方など基本動作の説明を受け、ライフジャケットを着て実際にSUPに乗って体験。始めは立ち膝から、慣れると立ってパドルを漕いでプールを回っていた。



令和4年(2022年)度以降の成人式について

【令和4年(2022年)度以降の成人式について方針が決定しました】

<方針>

民法の改正により令和4年(2022年)4月1日から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることから、苫前町では令和4年度以降は成人式の名称を「苫前町20歳(はたち)の集い」と改め、式典の対象者はこれまでどおり、「開催年度の4月2日～翌年度4月1日までの間に20歳を迎える方」といたします。

<理由>

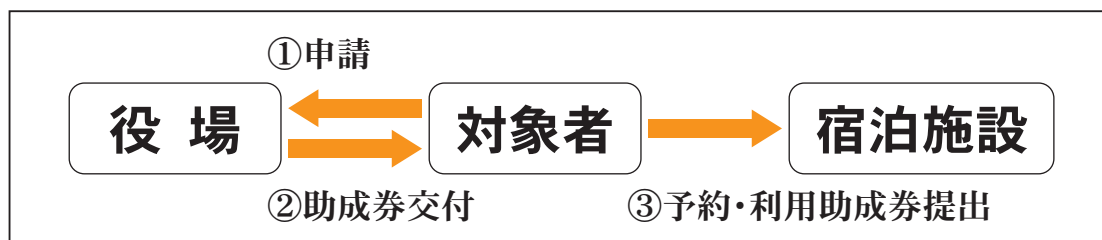
- 1 18歳という年齢は、対象となる大半が高校生であり、受験や就職活動のために時間的、精神的、経済的に余裕の無い時期であり、式典への参加が困難であると考えられるため。
- 2 契約行為などの年齢要件が18歳に変わる一方で、飲酒や喫煙など年齢要件が20歳のまま変わらないものもあり、20歳を迎える時期に式典を行うことで、一般成人同様の「権利の行使と義務を負う」ことへの責務と自覚を改めて持ってもらうため。

以上のことから、令和5年1月開催予定の式典より取り扱いを変更しますのでよろしくお願いいたします。

■問合せ先 社会教育課 ☎65-4076

苫前町いやしふれあい助成事業について

高齢者等の冬場の引きこもり解消や健康増進など健やかな生活支援を図るため、町が指定する宿泊施設の利用助成を行う「苫前町いやしふれあい助成事業」を本年度も実施しています。



◎事業対象者

①満70歳以上の方、②身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、③要介護2以上の要介護認定を受けている方、④②～③の該当となる方の付添人で町長が認めた方（付添人が町外の場合は、対象者の3親等以内の方）

◎申請受付

役場窓口、古丹別支所及び力昼郵便局で申請の受付を行っています。

（手続きには印鑑を持参ください）※今回から力昼郵便局での受付が可能となりました。

■問合せ等 保健福祉課福祉係 ☎64-2215

地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました

未来港公園沿道草刈り・漁協冷蔵庫前舗装補修 ～三協建設(株)～

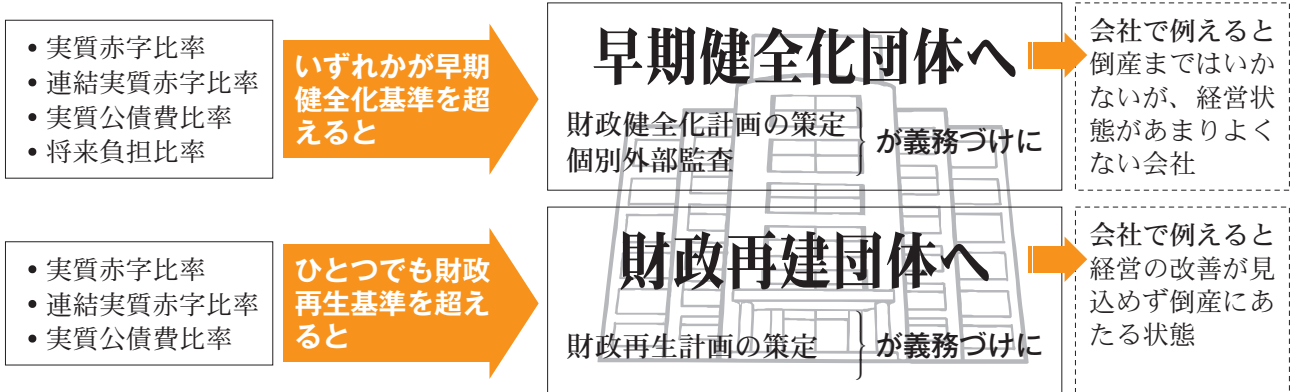
苫前漁港船揚場改良その他工事を実施している三協建設株式会社（堀松秀樹代表取締役）が8月19日（木）、20日（金）に未来港公園沿道の草刈りと8月30日（月）に北るもい漁業協同組合冷蔵庫前の縁石との段差解消のため舗装補修を地域社会貢献事業として実施していただきました。

ありがとうございました。



苫前町の健全化判断比率及び資金不足比率を公表します

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項及び第22条第1項の規定により、本町の令和2年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について、次のとおり公表いたします。



健全化判断比率

各地方公共団体の財政状況を判断する基準として、次の4つの比率が設けられています。

(単位：%)

	健全化判断比率		早期健全化基準	財政再生基準
	R 2 比率	前年度比率		
実質赤字比率	—	—	15.00	20.00
連結実質赤字比率	—	—	20.00	40.00
実質公債費比率	9.7	11.4	25.0	35.0
将来負担比率	—	—	350.0	

(注) 実質赤字額又は連結実質赤字額がない場合及び実質公債費比率又は将来負担比率が算定されない場合、健全化判断比率は「—」で表示

【文中の用語解説】

- 実質赤字比率＝一般会計等における実質赤字が標準財政規模に対してどれくらいの割合になっているかを表した比率です。
 - 連結実質赤字比率＝すべての会計を対象とした実質赤字(又は資金の不足額)の標準財政規模に対する比率です。
 - 実質公債費比率(3ヶ年平均)＝収入のうち、どのくらいの割合を借金返済に充てているかを表した比率です。
- ※当該比率が18%以上の市町村が地方債(借金)を借り入れる場合、都道府県知事の許可が必要となります。
- 将来負担比率＝一般会計等が将来負担すべき実質的な負債が標準財政規模に対してどれくらいの割合になっているかを表した比率です。

令和2年度の比率を見ても「早期健全化」「財政再生」の両基準を下回っていることから、健全な財政運営が行われていることが、わかりますね

資金不足比率

公営企業ごとの財政状況を判断する基準として設けられたもので、一定の基準を超えると経営健全化計画の策定が義務づけられます。

(単位：%)

	資金不足比率		経営健全化基準
	R 2 比率	前年度比率	
簡易水道事業特別会計	—	—	20.0
下水道事業特別会計	—	—	
風力発電事業特別会計	—	—	

(注) 資金不足額がない場合、資金不足の比率は「—」で表示

【文中の用語解説】

- 資金不足比率＝公営企業ごとの資金不足(＝赤字)がその公営企業の事業規模に対してどのくらいの割合になっているかを表した比率です。

上記の表を見てもいずれの比率も国の基準をクリアしており、苫前町の財政は十分に健全性が保たれています。

「簡易水道事業」「下水道事業」「風力発電事業」の3事業とも資金不足がなく、「—」で表示されているので、健全な経営がされていることがわかりますね

健康ばんざい

「20歳代から気にしたいがん」

子宮頸がん

今月の担当は 宮前保健師長 です

子宮頸がんって

どんな病気？

子宮の入り口部分の頸部にできるがんが、子宮頸がんです。20〜30歳代の若い女性には乳がんに近いで多いがんですが、60歳代も発症数が20〜30歳代の次に多い年代です。特に最近では、39歳以下の日本人女性で子宮頸がんの発病や死亡が増えていますが、早期の症状は、おりものが増えたり、色の変化がおこることがありますが、多くは自覚症状がありません。

子宮頸がんは原因として、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染があります。HPVは約8割近くの女性が生涯のうち一度は感染するが、感染しても身体の免疫機能で自然と治る場合が殆どです。しかし、一部が持続感染し「前がん病変」となり、その一部ががんになることがあります。また、HPVの感染経路は性交渉と考えられています。自覚症状がないことが多い早期の段階は自分で気づくことが難しく、子宮頸がん検診

で確認することが大切です。検診ではがんになる前の「前がん病変」や、ごく初期のがんを高精度に見えます。

この段階であれば、狭い範囲を切除する手術で完治することが多く、治療後の妊娠や出産が可能です。先進諸国では60〜80%の女性が受診しています。令和2年度苦前町の子宮頸がん検診受診率は、12.4%でした。

子宮頸がん検診はどんなことをするの？

苦前町では20歳以上の女性を対象に実施しています。町の子宮頸がん検診の流れは、受付↓保健師の問診↓更衣室でストッキングやタイツを脱ぐ(靴下は可)↓検査前にトイレを済ませる↓検診車内で診察・検査となります。検査の対象となる条件等は、今月のこの広報誌折り込みチラシでご確認願います。子宮頸がん検診で行っているのは、細胞診の検査です。まず、検診車内の部屋の診察台に上がっていただきます。カーテンを開けて足台に足をのせます。姿勢や身体の位置が整うように

看護師が声をかけるので指示に従ってください。あわてなくとも大丈夫です。医師が器具を使って子宮頸部の状態を診察し、ブラシで子宮の頸部をこすります。採取した細胞は、後日、顕微鏡を使って観察して検査します。

超音波検査を希望した方はそのままの姿勢で、医師が超音波の器具を使って子宮筋腫の有無や卵巣の状態を診察し、その場で説明します。検査自体は数分で終了します。子宮頸がん検査後は出血することがあるため、生理用ナプキンをつけるのが安心です。

HPV検査は、子宮頸がんの細胞診検査に使った残りの細胞を利用して、ハイリスク型HPVの感染の有無を確認し、さらに危険度の高いHPV16型、18型の感染を確認します。そのため、将来がんを発症するリスクを予想し、自分にあつた検査時期に病院等で検査を受けることで、より早期の段階で対処することができます。

また、昨年から新型コロナウイルス感染防止のため、時間毎の受付人数を少なくし、撮影や子宮頸がん検診の診察開始時間を早めています。例年よりも終了までの待ち時間が短縮できるように実施します。また、実施スタッフは体

調管理、手指や会場の消毒、換気に努めます。受診する方にも、健診前2週間内の体調不良、感染者が多く発生している地域や海外への訪問歴がある方は受診の中止をお願いいたします。当日の検温、マスク着用、乳がん検診は、ご自身のバスタオルの持参等ご協力をお願いいたします。詳細については、検診申込者に後日お知らせします。

40歳以上の方は乳がん検診も一緒に受けましょう！

苦前町では、公民館で子宮頸がん・乳がん検診(集団検診)を年1回12月に実施します。

▼日程
令和3年12月11日(土)

▼会場
苦前町公民館

(送迎バスあり)
*事前申し込み必要

詳しくは、今月の広報誌の折り込みチラシをご参照ください。

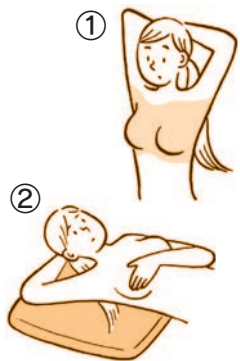
クーポン券(藤色)を6月に受け取っている方は個別に病院で検査を受けることもできます。クーポン券送付時に同封している検診の受診方法をご確認いただき、ぜひ、検診にご利用ください。

乳房のセルフチェック

乳がんについては、自分で乳房を定期的に触って確認することで、がんを発見することもできます。月1回程度を目安に、生理がある方は、出血が終わって4〜7日後に行うのがお勧めです。

①鏡の前で腕を上げ下げして、乳房に引きつりや形に変化がないか、乳首から分泌液がないかをみます。

②(お風呂の時に触ってみてもよい)指の腹を使って軽く押すようにして小さく動かしながら、上は鎖骨、下は肋骨の一番下、左右は鎖骨の中央から脇の下まで広範囲を触ります。左側は右手で、右側は左手を使うと触りやすいです。



「触ってみてもよくわからないから意味がないのかも」という声をお聞きますが、詳しくわからなくても大丈夫。「いつもと違う」と感じたときは、迷わずに乳房を診れる外科、乳腺外科の診察を受けましょう。

★苫前町はいかい高齢者等SOSネットワーク事業の開始について

認知症高齢者の方やその家族が地域で安心して穏やかに生活ができることを目的として、「はいかい」により行方不明になるおそれのある方への予防支援を行うとともに、行方不明になった場合には、地域の協力を得て早期に居場所を発見するため、「苫前町はいかい高齢者等SOSネットワーク事業」を10月より開始しました。



■対象となるのは？

認知症や障がい、病気などにより「はいかい」のおそれのある方や、その他町長が必要と認めた方がこの事業の対象者となります。

■「はいかい」高齢者等事前登録制度

「はいかい」などの心配のある方は、事前に町に登録しておくことができます。

ご家族の同意を得て、基本的な情報や特徴、写真などの情報をあらかじめ登録しておくことで、すみやかに検索が開始され、早期発見に役立ちます。また、保護された時の身元の確認も早くできるので、ご家族にとっても安心につながります。ご心配な方は…事前の登録を！

登録をご希望の方は、地域包括支援センター（役場保健福祉課）にご相談ください。

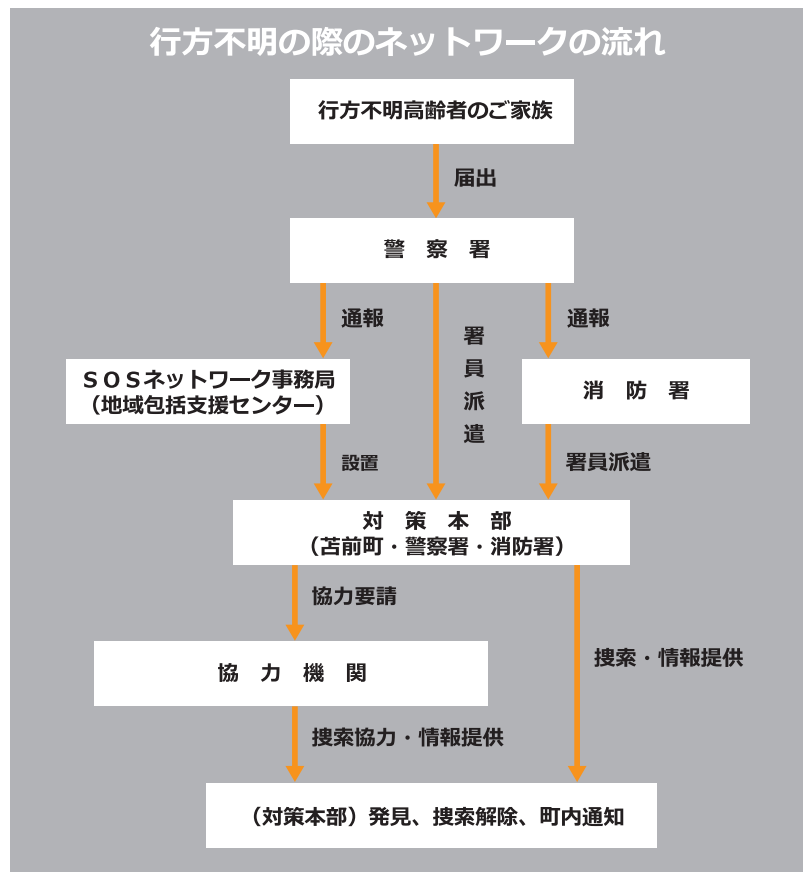
■行方不明になったら……

「はいかい」により行方不明になった場合のSOSネットワークの動き、流れは右図のとおりとなります。

ご家族の方は、まずは羽幌警察署（☎62-1110）へ届け出てください。

■SOSネットワーク協力機関を募集しています！

通常業務等に支障のない範囲の「はいかい」高齢者等の搜索活動や、「はいかい」高齢者等を発見した場合における警察署又は対策本部への連絡や対象者の保護など、協力していただける町内の事業者を募集しています。



◆事業のお知らせ◆

11月19日(金)の寿いきいき教室は、体力測定の実施予定です。
ご自身の体力が維持できているか、確認のためにも、是非ご参加ください。

お問合せ 苫前町地域包括支援センター ☎64-2215